

2.6.1

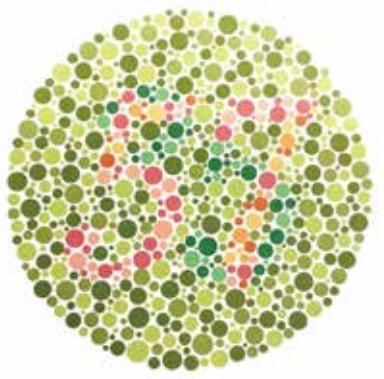
佐倉市

教育センターだより Vol.51

令和2年6月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html

一人一人に合った支援とは

佐倉市教育センター所長 榎 本 泰 之



小学生の頃、健康診断の時期になると左記の検査を実施し、毎年嫌な思いをしていたのを思い出します。ほとんどの人は「57」という数字が見えると思いますが、私には数字の識別ができません。初めてこの検査を実施した時に、私は他の人と違うのだとショックを受けたのを覚えています。さらにショックを受けたのは、検査担当の先生に何度も「見えないのか？」と聞かれ、さらには「あなたは美術の仕事はできないね。」と言われたことです。その後の図工の時間が苦痛だったことをはっきりと覚えています。翌年、検査を嫌がる私を見るに見かねて、担任の先生が別の部屋で検査を行ってくれました。そこで「色の見え方が少し違うだけで、全く気にすることないよ。」と話してくれました。その一言で救われた記憶が鮮明に残っています。

数年前、ある少年院の施設見学に行きました。少年院の敷地に入ると、少年たちが元気よく行進する声が響き渡り、一気に緊張感が高まりました。施設内は張り詰めた空気に包まれ、少年たちが収容されている棟に行くには鍵のかかった扉を何か所も通らなければなりませんでした。収容棟に入るとすぐに目に留まったのが、一人で草むしりをしている少年でした。何か規則を破って罰として草むしりをしているのだろうと想像しながら、グラウンドへ案内されました。グラウンドでは、少年たちがサッカーを楽しそうに行っていましたが、そこにも一人でポツンとたたずんでいる少年がいました。怪我でもして、サッカーができないのだろうと何の疑問も感じないまま体育館へ行き、剣道の稽古をしている少年たちの活気に満ちた姿を見て感動したのを覚えています。

施設見学終了後、研修室に入り、職員の方が施設の概要などを丁寧に説明してくれました。その後の質問の時間に、どうしても気になっていた2人の少年のことを質問してみました。すると職員から私が想像していた事とは全く異なる内容の話がありました。「あの子たちは、その日によって異なりますが、みんなで何かをすることが苦手で、今日は集団に入ることができず、一人で活動している。」とのことでした。少年院では集団指導だけが行われていると思っていたため、特別支援教育ともとれるきめ細やかな指導が行われていることを初めて知り、私はとても驚かされました。その他にも少年たちの育った環境などについて、詳しく話してくれました。「虐待を受けている。」「こだわりが強い。」「学校にほとんど行ったことがない。」「時計を読むことが苦手。」「注意や指摘をされると怒り出す。」など。

そして、最後に職員から次のような話がありました。「ここで過ごしている少年の中には、日常生活をする上で困難を抱えている少年もいます。身近な大人が、小さい頃の子どもの特性に気づき、支援をしてあげれば少年院で過ごすこともなかったかもしれません。最も大切なのは親の接し方だと思いますが、多くの子どもたちと接する学校の先生方の役割も非常に大きいです。」と。

私はそれを聞いて、過去に会った多くの子どもたちの姿が脳裏に浮かびました。本人の困り感や特性など、子どもたちのことをどれ程理解していたのか。一人一人に合った支援をしていたのだろうか。そして、小学生時代、担任の先生の一言に救われた記憶も思い出し、改めて教員の一言、子どもたちへの接し方や愛情、使命感の大切さを感じました。

教育センターでは、4ページにあるような7つの事業を中心に推進しています。中でも、特別支援教育推進事業、インクルーシブ教育システム推進事業や教育相談事業では、佐倉市内の困り感のある全ての子どもたちを支援の対象としています。子どもたちが将来困らないように、そして立派な社会人となるように全力で支援していきたいと思っています。そのためには、学校と教育センターの綿密な協力関係が不可欠です。昨年度以上に学校との連携を深めながら今年度も頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

令和元年度佐倉市学習状況調査

～子どもの「輝く」力の向上をめざした学力向上・学習内容の充実のために～

令和元年度佐倉市学習状況調査について、調査の概要と今後の展望、基本問題（A問題）に関する具体的な正答率から考察した手立てと、児童生徒の到達度と学習意識との関係についてまとめました。ここでは調査結果の一部のみ掲載しています。

調査概要と今後の展望

佐倉市学習状況調査では、小学校1年生～中学校2年生は1月に、中学校3年生は11月下旬から12月にかけて、各教科の学習内容の到達度調査と、学習に対する意識や生活習慣等についてのアンケート調査を行っています。到達度調査の問題は、国語、算数・数学、理科、英語の基本問題（A問題）、国語、算数・数学の活用問題（B問題）を実施しています。各問題の令和元年度の現状値は以下の通りです。

調査問題	対象学年	基本方針	現状値
基本問題 (A問題)	小1～中3	① 今後の学習内容に影響を及ぼすため、身に付けておきたい知識・技能 ② 実生活において活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	80.8%
活用問題 (B問題)	小5～中3	① 知識・技能などを実生活の様々な場面で活用する力 ② 課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力	69.7%

基本問題（A問題）の結果から見られる工夫・改善の手立て

各教科の基本問題（A問題）の中から正答率が低い問題をピックアップし、今後、授業を実施していくまでの工夫・改善の手立てをまとめました。

国語 A



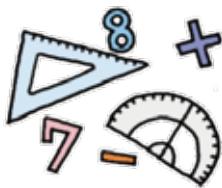
学年	正答率が低い問題	手立て
小1	こんにちは ※絵に合う平仮名を書く 70.5%	「わ」と「は」等の助詞の表記と語中の表記の違いについて理解を図る。
小2	チューリップ ※平仮名をカタカナに直す 70.9%	長音を含む言葉を平仮名とカタカナの両方で書かせることで、表記の仕方を意識させる。
小3	親切 ※書き 72.1%	
小4	短い ※書き 64.0%	形が似ている漢字や音が同じものを別の漢字に当てはめているので、意味を考えて書けるように指導する必要がある。
小5	勇ましい ※送り仮名も含めた書き 37.8%	
小6	熟語の構成が同じものを記号選択する問題 71.2%	言葉を組み合わせる問題を苦手としている児童が多く、いろいろな言葉を使った組み合わせについて指導する必要がある。
中1	文章から文の成分(主語)を記号選択する問題 32.4%	
中2	文章から品詞名(連体詞)を記号選択する問題 32.4%	文節相互の関係を、小学校における学習からのつながりを意識し、系統的に指導していく必要がある。
中3	文章から品詞名(助動詞)を記号選択する問題 51.1%	

英語



学年	正答率が低い問題	手立て
中1	be動詞の否定文の適語選択 29.6%	be動詞と一般動詞を混在している。オールイングリッシュの指導が原則であるが、必要に応じて日本語の解説も行う。
中2	週末にしたいことを答える英作文 45.2%	
中3	英語の学習期間を答える英作文 36.2%	基本的な単語の定着を図り、既習事項を活用する学習場面を意図的に取り入れ、繰り返し復習する。

算数・数学A



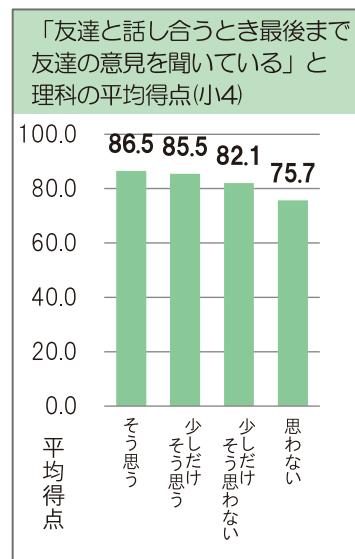
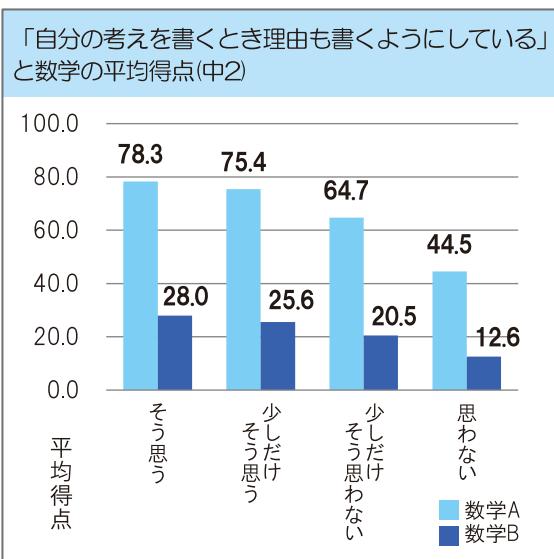
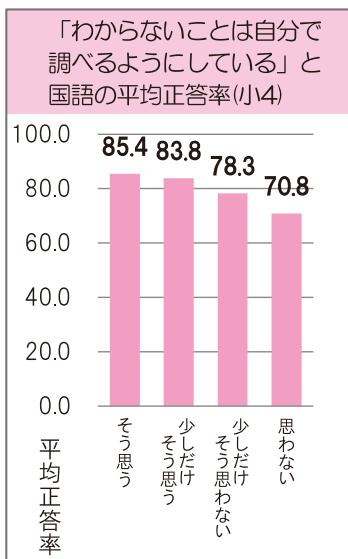
学年	正答率が低い問題	手立て
小1	15 - 4 - 1	86.0%
小2	281 - 43	83.2%
小3	80 × 10	75.3%
小4	18 - 9 ÷ 3 × 2	61.7%
小5	8 ÷ 0.4	67.3%
小6	4 × 3 ÷ 2 × 5 で求める三角柱の体積 77.5%	公式を導き出す過程を大切にし、「なぜそうなるのか」を児童に考えさせる場面を設ける。公式を覚えることに固執した指導からの脱却を図る。
中1	(8x + 5) - (4x + 3)	48.6%
中2	傾き 3、(3, 4) を通る直線の式	57.0%
中3	x ² =81	60.6%

理 科



学年	正答率が低い問題	手立て
小3	昆虫の2種類の成長の過程 40.2%	虫に触れる機会を増やし、それぞれの様子について観察や映像資料等を活用して視覚的に捉えるようにする。
小4	物質(空気・水・金属)ごとの温度と体積の関係 71.3%	実験方法の工夫やICTの活用、イメージ図や映像資料などで現象を視覚的に捉えるようにする。
小5	電流計の目もりの読み取り 52.1%	結果を量的な見方で分析し、考察を導いていくように授業展開を工夫していく。
小6	排出に関わる臓器(腎臓) 55.6%	体の各臓器の名称とはたらきを「消化」「呼吸」「血液の循環」の各しくみや体で起きる現象と関連付けていく。
中1	質量パーセント濃度の計算 46.9%	問題文に出てくる数字で何となく計算をしている誤答が多い。円グラフなどで視覚的に割合を示すようにする。
中2	鉄の硫化の化学反応式 36.0%	→をニとする誤答が多い。式だからニという感覚から切り離し、化学変化の方向性(不可逆性)を理解させる。
中3	前線面の様子 38.8%	前線の断面図が理解できていない。視覚的に捉えることができるよう事象提示の方法を工夫する。

児童生徒の到達度と学習意識との関係



上のグラフは、学習意識調査と各教科の平均得点をクロス集計したものの一部です。学習意識の肯定的回答と否定的回答の平均得点の差は大きく開く結果となりました。児童生徒それぞれの実態に合わせ、話すこと、聞くこと、考えること、調べること等の学習に対する意識を向上させることができることが、学力の向上につながっていくと考えます。新学習指導要領、新しい教科書への移行をきっかけに、更なる授業、学習指導の工夫、改善を図っていくことで、子どもの「輝く」力の向上をめざしていきたいと考えます。

教育センター事業

学力向上推進事業

- ・佐倉市学習状況調査
- ・好学チャレンジプリント作成
- ・全国学力・学習状況調査
- ・教育課題調査研究

教育相談事業

- ・適応指導教室の運営
- ・教育電話相談室の運営
- ・心の教育相談員配置
- ・学校教育相談員の活用推進

特別支援教育推進事業

- ・就学指導・就学相談
- ・特別支援教育関連
- ・特別支援教育支援員配置

道徳教育推進事業

- ・佐倉学道徳副読本
「佐倉の道徳」活用推進
- ・佐倉学道徳教材の作成
- ・佐倉学検定の推進

学校図書館活性化事業

- ・学校図書館担当者会議
及び研修会
- ・学校図書館司書配置

インクルーシブ教育システム推進事業

- ・発達相談
- ・言語通級指導教室の運営

教育センター普及振興事業

- ・センターだよりの発行
- ・センター報告会の開催

特別支援教育へのサポート～適切な支援による着実な成長を～

発達相談

担当の学校教育相談員：山辺浩子・谷上千秋・鷺頭栄子
学校支援コーディネーター：野老優子・長谷川真紀



就学相談

担当の指導主事：深澤朱美・楠川栄治



各相談の実施日時・場所・連絡先

- 相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前10時30分～午後5時00分
- 場 所 佐倉市将門町7（佐倉市立佐倉東小学校内） ●電 話 486-2400

佐倉市の教育相談事業

～自分のできることを少しずつ…～

適応指導教室

何らかの理由で学校生活に不適応な状態になっている児童生徒に対して、学習や小集団生活の場を提供しています。教室には、学校教育相談員7名を配置しています。

相談員や子ども同士の交流を通して、自己肯定感を高めるとともに、一人一人が安心して生活し、少しずつ学校復帰や希望する進路へ向かうことができるよう支援していきます。また、保護者・学校・適応指導教室が一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めています。

- 開設日：月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）午前10時～午後3時
- ・児童生徒の活動は 午前10時～午後3時 となります。

佐倉市西志津4-1-2

（西志津ふれあいセンター2階）

☎ 489-1002（第2・4月曜日お休み）

※小集団による活動を行っています。

コミュニケーション能力の育成や学習支援を行っています。

志津教室

佐倉市栄町8番地7

（佐倉市ヤングプラザ2階）

☎ 484-6611

※個別対応を中心に学習支援を行っています。

佐倉教室

教育電話相談

「教育電話相談室」では、市民、保護者、児童生徒など様々な方からの相談を受け付けています。経験豊富な相談員が丁寧に対応し、アドバイスをします。より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口の紹介もしています。

心の教育相談員

小学校8校に心の教育相談員を配置し、児童・保護者の悩みや不安に関する相談を受け付けています。友達関係や学校に関すること、生活の中での悩みも遠慮なく相談できるような関係作りを心がけています。また、子供の様子を捉え、さりげなく声をかける等の支援も行っています。